

評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 23 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570408054号
法人名	ユウケンガイシャ 有限会社 らいふ
事業所名	グループホームらいふ
所在地	大館市字長木川南343 (電話) 0186-42-2310
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成22年1月13日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 (常勤 8 人 非常勤 常勤換算 7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての ~ 1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかせ内科医院
---------	---------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

利用者を尊重し、地域との関わりを大切にしたい支援を理念に掲げ、「安心して楽しく生活してもらう」ことを職員の方針として共有している。
職員は笑顔によるケアを心がけ、法人代表者及び管理者を中心に家庭的な生活環境づくりに努め、日々の状況に合わせて食事時のレイアウトを変えるなど工夫している。
また、管理者が看護師のため通院時に付き添いながら医療面をケアし、できる限り家族にも付き添ってもらい、一緒に食事してきてもらうなど家族との関わりを大切にしている。
さらには、利用者の重度化に伴い夜勤を2名体制にしたり、一人で入浴したい方には緊急ブザーを携帯するなど、利用者の安全確保にも努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で課題としていた職員会議の充実や利用者の意向に沿ったローテーション、他事業所との交流などについて、引き続き課題として掲げ改善につなげることを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、管理者が職員の意見を参考にしながら自己評価をまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では事業所の運営状況を報告し、経過や結果について意見を求め、実践に生かしている。 なお、今後は外部評価の結果を提起し、課題等について建設的な意見を求めながら改善につなげるよう定期的かつ効果的な開催方法を検討してほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置し、家族には何でも相談してもらえるよう日ごろから声かけしている。 今後は、サービス向上のため家族の潜在的な意向や不満、要望等を把握できるよう積極的な取組みを期待したい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の小学生が遊びに来たり、幼稚園児の慰問などで子ども達と交流しているほか、利用者が一人で散歩に出かけた際には近隣住民が声をかけ見守りしてくれる。 今後は、ともに暮らす地域住民の一員として、地域の活動や住民との交流に積極的に取り組むことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営									
1. 理念と共有									
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、地域の方に入居者、家族など職員と共に助け合いながら、安心して楽しい生活が出来る施設である事を基本理念としている			利用者の尊重や安心な生活を支援し、利用者地域との関わりを大切に地域に開かれた事業所をめざして理念を掲げている。 また、理念をわかりやすく「安心して楽しく生活してもらう」と示し、職員の方針としている。			
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を職員が認識しやすい場所に提示し、また日頃から話し、職員の意識を高める取り組みをしている。			玄関に理念を、事務室に方針を掲げ、毎月のミーティングで理念を確認し合い、日々の実践につなげている。			
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	職員が日頃から地域社会の一員として生活しているという理念に対する意識を高め、地域の方々、入居者、家族等に接する事で理解されていると思う。						
2. 地域との支えあい									
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と朝の挨拶からはじめ、散歩やホームの畑に向いた時など声をかけていただき、また野菜等提供していただいたり、行事、慰問に参加してもらっている。	○	ホームで行う盆踊り、ソーメン流しや玄関前でやる催し物には隣近所の方の参加をお願いしていきたい。				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにある幼稚園の運動会に参加したり、ホームに遊戯や歌の慰問に来てくれる。また散歩に出かけると声をかけてもらっている。	○	町内会の集りには参加したり、大館の祭典は見に行くが、町内の出し物にも是非参加していきたい。	○	近所の小学生が遊びに来たり、幼稚園児の慰問などで交流しているほか、地域の祭りにも参加している。 また、利用者が一人で散歩に出かけた場合は近隣住民が声をかけ、見守りしてくれる。	○	以前加入していた町内会への再加入を検討するとともに、民家以外にも事業所の理解と協力を求め、利用者と地域との関わりを深めるよう今後の積極的な取り組みに期待したい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進会議の中で町内会長さんより町内の高齢化が進んでいるとの話もあり、会議の中ではホームの力を地域のために役立てたいという話をしている。	○	町内の現状を細かく調べ、具体的にどんなことが出来るか取組んでいきたい。				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用									
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を理解したうえで、改善項目については話し合い、速やかに着手し改善に取り組んでいる。			評価の目的をミーティングで職員に伝え、管理者が職員に意見を求めながら自己評価をまとめている。	○	前回評価結果で定期的な職員会議の開催を課題としているため、自己評価についても職員一人ひとりが取り組み、その結果を話し合っ一つにまとめるなど、職員の意見を積極的に取り入れる仕組みを検討してほしい。	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された事柄につき、ミーティングの場で報告し、話し合いの結果は現場で活かしている。			会議では事業所の行事予定など運営状況を報告し、経過や結果について委員から意見を求め、実践に生かしている。	○	外部評価の結果を積極的に提起し、具体的な課題等について意見を求めながら改善につなげるなど、会議を定期的かつ効果的に開催してほしい。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	大館市長寿支援課主催の研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいるが、市担当者の方と運営推進会議以外で話し合う機会がない。	○	市の公報などによる情報を良く見て参加し、サービスの質の向上に努めていきたい。	行政主催の研修会に参加したり、行政担当者から情報収集するなど関係づくりに努めている。	○	職員2名が認知症サポーター養成の指導者となっているため、地域包括支援センターと連携して地域で開催したり、広報を作成して行政や関係機関に情報提供するなど、受け身ではなく積極的な関わりを期待したい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会はあるが、職員同士での話し合いや活用できる取り組みをしていない。	○	地域の方や入居者の方に、活かせるような研修を受け、役立てるような取り組みをしていきたい。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員が学ぶ機会を作り、職員同士で言葉による圧力感がないが不適切な対応がないか注意し、気がつき次第改善に向けた取り組みをしている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解して納得された上で契約している。	○	入所契約時、不安な面は特に料金のことが多いので、入所前の面談で詳しく説明し、納得していただいている。また健康管理の面で、状態変化時の希望する受診病院を家族から聞いている。			
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の投書箱を設置し、また入居者からの不満や苦情には職員がすぐ解決出来るようにしている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた時、入居者の状況を説明し、また遠方の方には電話やFAXで報告している。			家族の来訪時に声をかけ、利用者の状況を伝えているほか、遠方の方には電話やFAXで暮らしぶりや心身の状況を知らせている。	○	定期的に広報を発行し、利用者の生活の様子を文字や写真で伝えるなど、わかりやすい情報提供方法を検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の時に、家族等が書いたアンケートの結果を真摯に受け止め取組んでいる。			玄関に意見箱を設置しているほか、家族には意見や要望、不満など何でも言ってもらえるよう普段から声かけするなど関わっている。	○	意見箱の設置場所を工夫したり、家族会を設けて意見を集約するなど、利用者及び家族の潜在的な意向を把握するための取り組みを検討してほしい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で出された運営に関する職員の意見や提案は、話し合いの結果をふまえて、取り組み実施している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者1人での対応困難な場合は、職員を2人増員し、勤務の調整に努めている。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時の引継ぎは徹底し、入居者が職員が変わることによっておこる不穏の予防に努めている。			職員の異動や離職があれば利用者に説明し、必要に応じて経験ある職員がフォローしながら利用者の不穏の予防に努めている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があるとき職員が研修を受講できるようにし、研修に参加した人は必ず職員会議で発表し、全職員の学ぶ機会を作っている。	○	研修案内は秋田市が多く、主に県北での研修の参加になるため、研修の機会が少なくなるので、秋田市への研修もすすめたい。	外部研修にはできる限り多くの職員が受講できるよう、管理者が職員の経験等に応じて参加を促している。 また、研修報告を職員会議の場で発表し、研修の成果を全職員で共有している。	○	職員一人ひとりの当面の目標や希望などを把握し、そのために必要な研修に参加する仕組みづくりとともに、事業所内外の研修計画に反映させることで段階的なスキルアップにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は他の同業者と情報交換をよくしているが、職員が交流する機会が少ない。	○	職員も他の施設と積極的に交流を持つ機会をつくる。	地域の協議会が組織されていないが、県の連絡協議会に加入して情報交換に努めている。	○	連絡協議会の設立を前回評価結果でも課題としているため、地域内の他事業所と連携して早期設立を実現させるとともに、相互の訪問交流や事例検討を通して実践を学び、事業所のレベルアップにつなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間の人間関係を重視し、また職員の意見を尊重し、働きやすい職場に努めている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援をし、取得後は職場内で活かせるようにしている。					
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前に本人、家族にホームの雰囲気を知ってもらうため施設に来てもらい、本人との会話の中から困っていること、不安なこと、求めていることを聞き、入居後の支援にとまどいが無い様になっている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族に施設をよく理解してもらうため、ホームでの生活内容を話し、理解を求め、家族の話を聞くようにしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅や前の施設での生活状況を良く聞き、必要としているサービスができるようにしている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居後何日かは家族の面会を促し、急激な生活上の変化をさせ、生活を維持しているという生活を送ってもらっている。			利用前に関わっていた介護支援専門員や家族と面会し、必要に応じて見学してもらいながら利用につなげている。	○	自宅訪問や事業所の事前見学を通じて本人との関わり持ち、事業所の雰囲気なども体感したうえで利用につなげる仕組みを検討してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護の都度声かけを忘れず、本人の状態を観察し、本人が得意とすることを話題にし、話を盛り上げている。			年長者である利用者から、干柿や梅干づくりなど生活の技や文化を教わり、利用者との支え合う関係づくりに役立っている。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人とゆっくり談笑出来るようお茶セットを準備し、家族に本人の最近の状況を話したり、心配なことを話してもらっている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	遠方において家族とあまり連絡取れない方には、電話で話してもらい生活の状況を説明している。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中から家族や友人等のことを話題にしたり、生活した地区の話や生活した場所が新聞に載ったときに一緒に読んでいます。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の輪の中に職員も参加し話を聞いたり、話をしたり、トラブルの発生が生じる状況時には、速やかに調整する。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時に相談を継続することを説明している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、言葉使いや表情、行動などから確認している。				入浴時に利用者の思いを確認するなど、日々の生活の中で声かけし、利用者の言動などから意向を感じ取るよう努めている。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしを本人、家族等から聞き、理解する様に努めている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々のケース記録を通し、問題把握に努め、毎日の生活の中から、本人が出来ることを見極めて本人に働きかけている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の話し合いから計画を立てている。	○	本人の意向を反映した計画を立てていきたい。		計画作成担当者が利用者のアセスメントを行い、その方らしく生活できるよう課題を職員間で話し合い、介護計画を作成している。	○	利用者一人ひとりの力を引き出すよう具体的な目標を設定し、自立に向けた介護計画の作成に努めてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化時、現状に合った計画を話し合い、作成している。				モニタリングにより利用者の状態を確認し、定期的に見直しているほか、申し送りなどで日々の状態変化を把握し、期間前でも随時に見直している。		
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、情報を共有し、計画の見直しを行い、休みの職員も必ず確認する体制を作っている。						
3. 多機能性を活かした柔軟な支援									
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方から来られた家族等に本人と居室でゆっくり食事を取ってもらい、楽しいひと時を過ごしてもらっている。				利用者及び家族の状況に応じて看護師が通院に付き添い、利用者の重度化に伴い夜勤を2名体制とするなど安全で柔軟な対応に努めている。 また、家族が通院に付き添う場合には利用者と外食したり、訪問時には家族と利用者が居室で食事をするなど、家族との関わりを大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	防災への取り組みについて消防の方から避難訓練や警察への協力依頼、町内会長、民生委員、隣近所の方との交流を通じて支援している。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するため支援への取り組みがされていません。	○	栄養管理の面で生活支援に結びつけられる様な体制を作りたい。			
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協力が無い。	○	地域包括支援センターとの交流を積極的に進め、地域の高齢者所帯の把握に努めたいと思っている。			
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人、家族等にかかりつけ医について説明し、希望があれば本人、家族が望む医療機関にて適切な医療を受けられるようにしている。			利用者のかかりつけ医や事業所の協力医による受診のほか、冬期間はかかりつけ医が往診している。 また、看護師が常勤しているため、通院を含めて医療機関との関わりを密にしている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嘱託医の協力のもと、専門医を受診し適切な医療を受けている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職の配置で介護職との連携にて状況変化に対応し、かかりつけ医とも連携し、健康管理を行っている。					
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医の紹介によりスムーズに入院～退院に向けた対応をしている。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と家族等とよく話し合ってもらい、ホームでの医療の限界を説明し、入院が必要な場合の理解を得るようにしている。			重度化した利用者の対応で夜勤を2名体制とし、医師と連携しながら限界まで介護し、家族にも説明のうえ最後は病院で看取ることとしている。 また、医師と家族等とよく話し合い、状態変化や利用者の思いに注意を払いながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携のもと家族との理解を取り、家族と頻りに連絡を取り、対応にあたっている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換を詳細に行い、本人・家族等の理解を得てから移るようにしている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃からプライバシーの確保について話し合い、職員同士で気がついたら速やかに解決するようにしている。			利用者を人生の先輩として丁寧に接し、トイレの紙を節約しながら使う行為も問題行動として捉えず、物を大切にすることを習慣と理解し、共有している。 また、個人ファイル等の記録等は事務所内の戸棚に施錠のうえ保管している。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケア時に本人に話しかけ、本人の希望を重視している。					
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の本人のペースに合わせた暮らし方を支援し、本人が希望を出しやすい雰囲気を作るようにしている。			散歩を日課とする方や居室でテレビを見る方など、利用者一人ひとりの生活リズムを尊重している。 また、食事の遅い方にはゆっくりと時間をかけ、一人で入浴したい方にはブザーを持たせるなど支援している。	○	前回評価結果でも課題としていたが、利用者の重度化や状態変化により利用者及び家族のニーズも変化すると考えられるため、2交代制ではなく早出や遅出なども取り入れた柔軟な勤務ローテーションを検討してほしい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日の着替えは本人の希望に沿って行っており、理容も馴染みの店に行ったり、施設に来てもらったりしている。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の能力に応じて、入居者と職員と一緒に調理をしながら、音や匂いを楽しんでもらっている。			職員が交代で調理を担当し、利用者の嗜好や食材などからその日の献立を決めており、職員が利用者に声かけしながら調理や配膳を共に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	旬の食材や新鮮なものを取り入れ、入居者から食べたい物を聞き、献立に活かし食事を楽しんでもらっている。						
	56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄表によりトイレ誘導し、失禁などには速やかに対応し、夜間のトイレは場所が分かるように電気をつけておくようにしている。						
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、必要に応じていつでも入浴できる体制にしている。	○	入居者の方がいつでも入浴の希望を出す事が出来る様、日頃から働きかけていくことが必要と思う。	基本的に週2回の入浴日としているが、利用者の希望に応じて柔軟に対応し、入浴を拒む方には足浴などで支援している。 また、一人で入浴したい方には緊急ブザーを携帯し、同性介助についても意思を確認しながら支援している。			
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の生活リズムの中から、個別に休息出来る配慮をしている。また、昼夜逆転しないように日中の活動を見守り、就寝に向けたリズムが安定する様に配慮している。						
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援									
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自宅にいたときから生きがいに楽しんでいたことを家族から聞き、食事の支度、花の手入れ、干し柿作りなど施設で活かせることを支援している。				調理の手伝いのほか食器洗いや茶碗拭き、掃除、洗濯など日常生活でできることを担ってもらっている。 また、写真を撮るのが好きな方など、利用者の趣味活動を楽しめるよう支援している。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる人にはお金を持っているという安心感を持てるように支援しており、お金を預かっている場合は収支を明確に家族に報告している。						
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人で外出し買物したり、散歩したり、戸外に出るのを生きがいにしている人に支援している。	○	地域住民の協力で外出支援を進めていきたいと思う。	重度の方もいるため、外出できる方は限られているが、できる限り散歩や買い物などで外出する機会をつくり、地域の協力を得ながら支援している。	○	外出支援ボランティアの受入れや車イス対応の車輛の確保など、重度の方への外出を支援するための方法を検討してほしい。	
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春の花見会、秋の紅葉見物に施設として積極的に取り組んでいます。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等との電話は、事務所にてゆっくり椅子に座って話をしてもらい、年賀状などは出す支援を行っている。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所時からいつでも面会できることを説明し、面会に来られた方に喜ばれるよう、歓待している。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通し、職員にも身体拘束しないケアに取り組んでもらっている。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	入居者の方には、居室や日中玄関に鍵をかける事がない生活を送ってもらっている。				日中は玄関に鍵をかけず、職員が利用者の状態を細かく確認しながら見守り、地域住民の協力も得ながら利用者の安全確保に努めている。	○ 地域住民のほか製材所や病院などにも協力の範囲を広げ、地域全体で利用者を見守る仕組みづくりをめざし、事業所の理解を求めるための取り組みを期待したい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は絶えず安全確認に配慮している。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時々の入居者の状況に合わせ、危険物の保管には配慮している。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の状態の把握に努め、事故防止に取り組んでいる。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救急時対応を日頃から職員にマニュアルにそって学んでもらい、また救急救命法の研修に参加してもらっている。	○		消防署へ救急救命法の参加申込みを定期的に行っていく。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施を行い、また町内会長さんも協力してくれている。	○		地域の方々の協力を仰ぎ、一時避難場所の確認をしておく。また、職員が避難訓練の実施、非常用持ち出し袋の中身を定期的に確認しておく。	○ 消防計画に基づき年2回の訓練を行い、地域の協力を得ながら夜間を想定した避難訓練も実施している。 また、全職員が救急法の研修を受講し、スプリンクラーを設置して緊急時に備えている。	緊急災害時には町内会館を避難場所とすることの承諾を得ているため、今後は訓練にも積極的に地域住民の参加を呼びかけ、避難誘導などの役割も明確にして利用者の安全確保に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と話す機会がある時は、説明し、理解を得るようにしている。					
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時、個々のバイタルチェック表に記入し、医療処置が必要な場合は、速やかにかかりつけ医に報告・指示を仰いで対応している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の服用している薬の内容がわかるよう、服薬ファイルをつくっており、処方変更のときは日誌にて職員が周知徹底するようにしている。また服薬確認をしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便が2～3日無い時は、食物の工夫・水分補給・散歩などを取り入れたり、またトイレにてウォシュレットで刺激を与え、排便を促したりする取り組みをしている。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいの徹底、口臭の有無の確認、就寝前のうがい、入れ歯の手入れをしている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が減少している方には、一日の食事の摂取量を把握し、食事の形態を工夫したり、皮膚の乾燥、口唇のかわきなどに注意し、水分補給に努めたりしている。			職員が当番制で献立を立て、利用者一人ひとりの食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員間で共有している。	○	夜間のおやつ可否なども含めカロリー計算や栄養バランスについて栄養士などの専門家から確認してもらい、助言を得ながら栄養管理に努めてほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルにそって、流行期には注意を呼びかけている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の点検を食事当番の方にしてもらい、衛生管理を徹底してもらっている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前に、季節季節の花を植え、またミニトマトも植え、家庭的な雰囲気作りをしている。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、調理場が一体的になっているが、職員がいつも調理場にいるので会話ははずみ、不都合な面をすぐ見る事が出来る。			居間や台所、食堂や畳のスペースが一体的な空間で、一般家庭のような造りのため過ごしやすい雰囲気がある。 また、食堂のテーブルを三日月型につくり、状況に合わせて様々な形にレイアウトできるよう工夫している。	○	設置基準上エレベーターの設置は義務付けられていないが、2階居室利用者の重度化などに伴い、1階の居室に移すなど事業所としての安全対策が求められるため、行政に相談しながら設備の改善に取り組んでほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座敷のコタツやソファで仲の良い入居者同士がくつろいだり1人でテレビを見たり、読書したり、思い思いで生活している。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使った馴染みの家具を用意し、家庭的な雰囲気にし、居心地良く過ごしている。			各部屋に洗面台やベッド、クローゼットなどを備え付け、利用者の使い慣れた家具などを持ち込み、位牌や写真を飾り個性的な生活空間をつくっている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の方の状況を見て、換気や室温の調整をこまめに行っている。					
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能を活かすため、夜間のPトイレの設置位置の工夫、手すりの利用、段差へのスロープの設置などを行っている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	夜間一人で行けるように、トイレの照明をつけたりしている。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	遠くまで散歩に出かけられない入居者の方に、玄関前や駐車場で過ごしてもらうよう工夫している。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活の場として家庭的な雰囲気のもと、入居者の方々がストレスの無い暮らしが出来て、健康維持出来る働きかけをしている。